

「女性のためのキャリアフォーラム」神戸で開催

働く女性の未来を応援

フォーラムの実行委員会は12人の女子学生で構成。メンバーは主催団体とともに会議や合宿などを通して準備し、当日の司会進行なども行った。(名簿は順不同、敬称略)

- ・神戸海星女子学院大 現代人間学部3年 酒井 友菜
- ・神戸海星女子学院大 現代人間学部3年 西中 真理子
- ・甲南女子大人間科学部3年 広瀬 絢
- ・神戸女子大文学部3年 藤原 いち湖
- ・神戸女子大文学部3年 吉井 伶奈
- ・神戸学院大文学部3年 東浦 渚央
- ・神戸学院大文学部3年 伊藤 渚
- ・神戸学院大文学部3年 宮淵 瞳
- ・神戸学院大文学部3年 石本 栞里
- ・神戸松蔭女子学院大文学部3年 島田 衣路
- ・神戸松蔭女子学院大人間科学部3年 川端 加奈絵
- ・神戸松蔭女子学院大文学部3年 齋藤 華代



フォーラムを企画した実行委員会の学生スタッフ

女子学生の就職活動を応援し、在職中、求職中の女性のよりよいライフプランを提唱するなど「女性が進むための支援」をテーマにした「女性のためのキャリアフォーラム」(兵庫県雇用開発協会、兵庫県主催、神戸新聞社共催)がこのほど、神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開かれた。各企業の人事担当者と女子学生が就職活動について論議を交わすパネルディスカッションや、少子化ジャーナリストの白河桃子さんの講演などが行われた。



第1部の企業と女子大生によるパネルディスカッション

パネルディスカッション



中村 恵さん



伊藤 渚さん



東浦 渚央さん



島田 衣路さん

Q:島田さん エントリーシートの書き方

A:稲川さん 具体的な志望動機が好印象

中村 就職活動に関わる疑問点や、就職してからも女性が直面する出産や休職、育児などの事柄を含めてディスカッションしていきたいと思う。まずは最初の質問から。

島田 就職活動では最初にエントリーシートを書き、次に面接となる場合が多い。数多くの中から実際に会いたいと思うエントリーシートとはどのようなものなのか。

村岡 モロゾフでは、届いたシートは名前と学校名を伏せてから一枚一枚全て見ている。私自身が会いたいと思うのは、私たちに会いたいという気持ちがこもったシート。数多く見てい

ると、どこから写したような同じ文章があったりするが、それらはやはり除外する。こちらの質問に的確に、気持ちを込めて書いてもらえれば、こちらも会いたいと思う。

稲川 ノエビアでも複数の人間がエントリーシートを全て見ている。みなさん、逆にシートを見る側の気持ちを想像してほしい。志望動機や自己PRが1行で終わっているシートを書いた人に会いたいと思うだろう。やはり行間に気持ちがあふれていることが大切だと思う。あと、わが社の業務内容をとても深く理解し、入社後、具体的にどのような仕事をしたいのかを

志望動機に書いていた方がいた。こういうシートはとて面白い印象が残った。

伊藤 最近よく言われている「グローバル人材」というのを、各企業はどのようにとらえているのか。

大利 海外に広く事業を展開するという事は、異文化との交流でもある。そして、異文化と交流する前提として、日本文化をよく知ることがとても重要になる。語学より必要なのは、自分たちの歴史や文化を知っているかどうか。外国人はそこに興味を持ち、商品やサー

ビスを理解しようとする。語学力というよりコミュニケーションをきちんと取ろうとする努力が必要だ。

神谷 語学はツールの一つにすぎず、英語が堪能だからといってグローバル人材というわけではない。むしろ、外国人と仕事をする際には、どれだけ相手の文化や歴史を理解して、それを踏まえた上でコミュニケーションを取り、交渉をし、自分の考えを主張していけるかが重要だと思う。

東浦 今までのイメージでは、女性は異動がない職場や自宅から通える範囲の配属希望が多いと思う。女性の就職が推進される現在、働いている女性の希望はどうか。

筑後 メディセオは医薬品の卸売業をしている。わが社の場合、女性が地元で働けることを目指している。これは薬剤師も営業も同じだ。

Q:東浦さん 配属希望地の動向について

A:村岡さん 勤務地を選びやすい時代へ



村岡 扶美さん



稲川 大地さん



筑後 敦之さん



大利 清隆さん



神谷 知佳さん

Q:中村さん いい会社を見分ける方法は

A:筑後さん 平均年齢や勤続年数に注目

村岡 実感としては、全国への転勤がOKという女性は、今は減っているのではないだろうか。それは氷河期と言われた時代に比べて、勤務地を選ぶ雰囲気が出てきたということだと思う。

中村 これから就職する学生たちに、いい会社を見分ける方

法のアドバイスを。筑後 いろいろあると思うが、分かりやすい指標として、全社員の平均年齢と勤続年数がある。やはり社員が働きやすい、働きがいのある会社からは、そうそう退職者が出ない。ここを調べてみるのも一つの方法だ。

特別講座「9割が知らないで損をしている！ 中小企業の魅力と探し方」

学生と話をしていると、中小企業に対する誤解をよく見受けられる。誤解は大きく5つある。

「優れた企業」見抜く目を



吉住 裕子さん 代表

三つ目は、商品名や企業名が知られている企業の方が優秀で安定している、という思い込み。一般に知られていない企業でも、優秀なところはたくさんある。この誤解は、学生が一般消費者であることが原因。だが、消費者ではなく企業を相手に取引している企業も。こういう企業は比較的多い。

少子化ジャーナリスト・作家 白河 桃子さん



しろかわ・とこ 東京都出身。慶応義塾大学文学部卒。住友商事、リーマンブラザーズ勤務などを経て著書に「婚活」をキーワードに、女性のライフプランやキャリア、男女共同参画などについて発信。著書に「婚活症候群」格付けしあう女性たち」など。

なぜ今の時代、女性が活躍しないといけないのか。それは人口減少という問題があるから。それを解決するには、女性が子どもを産みたいという気持ちにならないといけない。結婚、出産という選択をするのは女性だからだ。

四つ目は、中小企業は大企業の下請けだ、という誤解。従来はそういう傾向があったが、最近ではIT化が進み、中小企業でもとんだる世界の中の顧客と直接つながることができるようになり、独自の展開をしているところも多い。

女性の活躍が少子化防ぐ 経済力と男性の協力が鍵

子どもを産みたいと思っただけで、もそこに問題があるなら、それを取り除いていくことが企業や政府の役割だ。女性の活躍がなぜ少子化を防ぐのに必要なのかという点、経済力が必要だから。女性の経済力がある国ほど少子化ではない傾向がある。逆に女性が働けない、活躍できない国は少子化になっている。「女性が働く」は、少子化になる」という議論はもう古い。

もう一つの要因は男性の育児時間。「男性の育児時間が長い国ほど少子化は防げる」といわれている。また、やる気にあふれた女性が、働いているうちに元気がなくなるということがよくある。それは家庭や育児と仕事の両立が想像できないから。いずれ子育てで仕事を辞めなければならぬかもしれないという不安が背景にある。

なぜなら「働くこと」は必要なことなんだと女性に納得してもらったことが重要だと考えている。働き続けることは決して無駄にはならない、働くことが必要だ。そのためには企業や社会のサポートが必要。女性だけでなく、男性も働きやすい環境を整える必要がある。

結婚や子育ての希望にかなわないというデータがある。つまり男性の長時間労働は少子化の要因であり、その国の労働形態と少子化との間に大きな関連がある。私が考える少子化の解決策は、働きたい女性も働きたくない女性も、あまりつらくなく働けるようになることだ。女性が子どもを産みたいという気持ちになるには、育児と両立できる安定した仕事が必要。男性が一人ですべてを養うことができた。その場合、女性には不安定な仕事に就いてもいいよ」と思えた。

講演「仕事・結婚・出産—女性のためのライフプランニング—」